

## アンケート調査結果(ご意見・ご感想)

※矢印(→)以降にご意見・ご感想への説明、対応内容を記載しました。

### ①「川的好感度チェックシート」について

#### 質問1 全体的なレイアウトについて

- ・大きくて分かりやすい。
- ・低学年には、8問くらいで良いかなと思います。  
→小学校3年生以上を想定して作成し質問数を10問としました。
- ・写真などビジュアルをお願いします。  
→現地調査時の使いやすさに配慮しA4両面にまとめたため、写真を入れるスペースがなくなってしまったのでコバトンのイラストを入れました。
- ・文字が太すぎてわかりにくい。  
→文字のフォント(書体)を変更しました。
- ・大体良い。
- ・場所名は流域なので、もっと詳しく述べさせる方が適當。  
→川の名前と場所の名前を記入していただくこととしています。
- ・チェックに「ゴミ」がない。  
→質問⑤の中でゴミについても評価することとしています。
- ・グラフの作り方のところの文字が小さすぎないか。  
→文字を大きくしました。
- ・2の評価を点線にしては？  
→グラフの補助線を点線にしました。
- ・簡潔で見やすい。
- ・字がほとんどなので、生き物や川の風景などのちょっとしたイラストを添えるとほっとする。  
→現地調査時の使いやすさに配慮しA4両面にまとめたため、イラストを入れるスペースがなくなってしまったのでコバトンのイラストを入れました。

#### 質問2 使用方法について

- ・質問内容が簡単で、ふりがなもふってあり、分かりやすい。
- ・3段階評価より、「◎○△」の方が子供は分かりやすい。  
→検討会での検討の結果、3段階で判断する現行のままとすることになりました。
- ・簡単でよいが、裏面のレーダーチャートは小学校低学年には分かりにくいのでは。  
→小学校3年生以上を想定して作成しており、分かりづらい場合には説明者に補足してもらうこととしています。
- ・裏面のグラフの線と子供が記入した線とが同じ実線となって見えにくいので、グラフの線を点線にするなどするとよい。  
→グラフの補助線を点線にしました。
- ・少し意図が伝わりづらい気がしました。  
→実施マニュアル中の着眼点の記載方法を整理し説明者にも分かりやすいように配慮しました。

#### 質問3 質問「①水は流れていますか？」について

- ・水量と流速を総合的に判断するのが難しいと思う。  
→実施マニュアルに、各自が思ったままに評価してもらう旨の補足説明を追記しました。
- ・汽水域の川は、干満によって流速が変わるので、基準を説明しにくい。  
→実施マニュアルに、あえて水量や流速の基準は設けていない旨の補足説明を追記しました。
- ・小さな子は、流れが強いと、「怖い」の感覚もあるようです。
- ・着眼点を事前に指導したのですが、水の流れの「速さ」なのか「量」なのかという質問をする子がいてとらえにくかったようです。  
→実施マニュアルに、各自が思ったままに評価してもらう旨の補足説明を追記しました。
- ・今の状態のみで前後の確認はしていないため、何の意図なのか分かりません。  
→調査実施時の状況の評価してもらうものです。必要に応じて継続して使用していただくことにより変化の記録用として活用していただくこともできます。

#### 質問4 質問「②水は澄んでいますか？」について

- ・ 澄むという意味がわからない子が数名いました。  
→実施マニュアルに説明を記載し、説明者に補足してもらうこととしています。
- ・ 水の透明度というよりも、水底の色によって判断されるので、下流域の川では分かりにくい。
- ・ 「澄んで川底が見えます」の方が解りやすいかな？  
→あくまでも透明度による水の汚れ具合を評価する表現としました。
- ・ にごりの色まで書くところがあるのはよい。

#### 質問5 質問「③魚や虫などの生き物はいますか？」について

- ・ 鳥も入れるなら、鳥の表記も入れたほうが良い。  
→鳥も追加しました。
- ・ 「生き物」を「動物」にしても良いかなと思います。  
→検討会での検討の結果「生き物」のままとすることになりました。
- ・ 生き物の名前を書くところがあるのはよい。ただし、「たくさん」いるのが複数になった場合、書くスペースがない。  
→スペースに余裕がないため、別の紙に記入していただきますようよろしくお願いいたします。

#### 質問6 質問「④植物は生えていますか？」について

- ・ 外来種や野菜畑(違法)でも生えていればよいのかということから、基準は地元の在来植物とすべきでは。  
→外来種や野菜畑(違法)がよいということではなく、あくまでも植物があるかどうかという質問のため現行のままとしました。
- ・ 植物の名前は、ほとんど出てきませんでした。
- ・ 「3たくさんあります、2あります、1ほとんどありません」の方がいいのでは。  
→表現を変更しました。
- ・ (名前: )の( )は不要ではないか。  
→補足として記入してもらうものであるため現行のままとしました。
- ・ 植物の名前を書くところがあるのはよい。ただし、「たくさん」あるのが複数になった場合、書くスペースがない。  
→スペースに余裕がないため、別の紙に記入していただきますようお願いいたします。

#### 質問7 質問「⑤まわりの景色を見てどう思いますか？」について

- ・ 周りの景色と川の関係が分かりにくい。たとえば川の周辺にきれいなマンションが建っているのが、きれいだとすると、川とどのような関係があるのか。川の周辺らしい景色が望ましいのでは。  
→人それぞれ感じ方は異なるので、各自が思ったままに評価してもらうこととしています。
- ・ 第六感で、「この場所が好きですか」に変更して、最後にもってきたらどうか。  
→調査実施場所の状況を評価してもらう設問として現行のままとしました。
- ・ 「美しいです」より「自然がいっぱいです」では。  
→「きれいです」という表現に変更しました。

#### 質問8 質問「⑥自然の音が聞こえますか？」について

- ・ 「自然の音って何？」と質問がありました。  
→実施マニュアルに具体的な音の例を記載しています。
- ・ 自然の音という抽象的な表現でなく、水の流れの音、風の音、虫の音、野鳥の音、花や草の香りやにおいなど、具体的にしたらいかが。  
→スペースの都合により具体例が記載できなかったため、実施マニュアルに具体例を記載しました。
- ・ 鳥という言葉が出てこないの、あえてここで鳥の鳴き声などとしたらどうでしょう。  
→質問③に「鳥」を追加しました。
- ・ 自然の音の例示を入れると分かりやすくなる。(川のせせらぎや、鳥の鳴き声など)  
→スペースの都合により具体例が記載できなかったため、実施マニュアルに具体例を記載しました。
- ・ 風や流れの「音」もあるが、鳥や虫の「声」もある。「音」だけでなく「声」も文言として入れた方がいい。  
→実施マニュアルに「声」を記載しました。

### 質問9 質問「⑦川やその周りのおいはどうですか？」について

- ・「心地よいにおい」の意味がわからない子がいました。  
→人それぞれにおいの感じ方は異なるので、あえて具体例は記載していません。
- ・「少しにおう」という程度を反映させる項目がない。子供が迷うのでは。  
→「におう(心地よいにおい又は嫌なにおい)」か「におわない」かで評価してもらうため、少しでもにおう場合には「におう(心地よいにおい又は嫌なにおい)」としてください。

### 質問10 質問「⑧川やその周りで食べられる魚や植物などを知っていますか？」について

- ・調査を実施した川が対象となることが分かりにくいと思う。  
→調査実施場所での存在を問う質問に変更しました。
- ・五感での評価でなく、知識を問う質問で異質。  
→存在を問う質問に変更しました。
- ・植物はともかく下流域ですとかなり難しい設問です。したがって、食べられる食草があることを知っていますかという程度でいかが。  
→魚も含め存在を問う質問に変更しました。
- ・名前を聞いているのか、存在を聞いているのか、意図がはっきりしない。  
→存在を問う質問に変更しました。
- ・近年では都市部の川ではまず食べられそうなものは無いと思います。
- ・五感(味覚)を使って評価する項目であるとするれば、「知っているか」より「食べたことがあるか」を問うほうがベターです。  
→存在のみを問う質問に変更しました。
- ・実例等何の資料もなく図鑑もなく確認もできない・・・ 専門の人でもいれば・・・  
→実施マニュアルにいくつか具体例を記載しました。また、県では、川の国アドバイザー制度を設け、魚や植物に関する知識が豊富な方を環境学習の講師として派遣しておりますので、ぜひご活用ください。

### 質問11 質問「⑨ここで遊んだことがありますか？」について

- ・五感での評価に適さない。「遊びたいか？」が良いのでは。  
→検討会での検討の結果、頻度による利用状況を評価する項目として現行のままとすることになりました。
- ・分かりやすい。
- ・遊べるような川ではないので・・・
- ・最初に「きたことがある はじめてきた」と書いておいては？  
→実施マニュアルに注意事項として記載し、説明者に補足してもらうこととしました。

### 質問12 質問「⑩水に触ってみたいですか？」について

- ・分かりやすい。

## ② 「指導者マニュアル」について

### 質問1 全体的なレイアウトについて

- ・ これでよいのでは。
- ・ できれば1枚にまとめてもらいたい。  
→チェックシートの使用方法だけでなく、川やその周りの環境に関する様々な情報を盛り込むことにより説明者にとっても有用なものとするため現行のままとしました。

### 質問2 【1「川の好感度チェックシート」について】～【3「集計シート」の提出について】の記載内容について

- ・ 掲載結果の公表は、報告されたものすべてを無条件に公開するのではなく、報告とHP掲載などは分け、公開については、別に了承を得たほうがよいのでは。  
→HPへの掲載を希望されない場合はその旨お伝えいただければHPへの掲載はいたしません。なお、できるだけ多くの結果を公開し情報共有を図っていきたくと考えておりますのでご協力お願いします。
- ・ 文字が多すぎないか？  
→説明者が初心者でも調査手順や注意点が分かりやすいように記載しているため現行のままとしました。
- ・ 全体的に説明がくどい。表記を簡潔して記述した方がよいと思います。  
→上記と同じ理由により現行のままとしました。
- ・ 教科書的な記述は避けた方がよい。  
→説明者用のマニュアルのため現行のままとしました。
- ・ インターネットには接続していないので郵送も可能にしてください。  
→郵送でも受け付けることとしました。
- ・ 評価の優劣に関しては、同じ団体が2箇所を評価するような場合はある意味で優劣の評価にはなる。ここでは子供たち個々の評価自体に優劣がないということが重要ではないか。  
→子供たち自身にも評価結果を比べて優劣をつけるものではないということを理解してもらうため、チェックシートに注意文を記載しました。
- ・ 河川や河川敷を観察するための時間も十分にとってもらった方がよい。  
→調査時間に配慮してもらう記載内容に変更しました。
- ・ 河川管理者等に必ず確認を行うというニュアンスは必要ないのでは。  
→必ず確認しなければいけないという誤解を避けるため記載内容を変更しました。
- ・ 調査手順の②の1つ目の○の「各団体(各自)」の(各自)は不要では。  
→各自の責任も必要なので現行のままとしました。
- ・ 調査手順の②の4つ目の○の「指導」は不要では。  
→「指導」ではなく「実施」に変更しました。
- ・ 調査手順の③の2つ目の○は集計結果と自分の評価が違っていても優劣がないということが重要ではないか。  
→集計結果と個人の結果に優劣があるわけではないという記載内容に変更しました。

### 質問3 追加してほしい項目(内容)について

- ・ グラフの活用法について。  
→グラフの活用例を記載しました。

### 質問4 質問「①水は流れていますか？」について

- ・ 感潮河川の説明があるが、そのような河川の水の流れをどう評価したらよいかがない。  
→水量や流速の基準は設けていないので、各自が思ったままに評価してもらう旨の補足説明を追記しました。
- ・ 流れの判定基準があるといい。  
→あえて水量や流速の基準は設けていない旨の補足説明を追記しました。
- ・ 「勾配」の話もしてあげたい。  
→勾配に関する記述も記載してあります。
- ・ あえて「感潮河川」という専門用語を使う必要はないのでは。  
→下流域の河川の特徴にも触れるとともに専門用語を知識として習得してもらうため現行のままとしました。

#### 質問5 質問「②水は澄んでいますか？」について

- 最後の項「水の流れが澄んでいても水底・・・」は汚れているとの評価でよいか。  
→人それぞれ感じ方は異なるので、各自が思ったままに評価してもらうこととしています。
- 基準があるとよい。川底が少し見えるとかバケツに入れたら底が見えるとか。  
→あくまでも各自が思ったままに評価してもらうこととしているため、基準は設けていません。
- 透明度が良い→澄んでいる。
- 淡水赤潮もありますが、むしろ「アオコ」の方が埼玉では一般的では。  
→埼玉県内での発生状況を踏まえて「アオコ」に関する記述に変更しました。

#### 質問6 質問「③魚や虫などの生き物はいますか？」について

- 水生昆虫の調査は、この程度の調査では不可能では。  
→このチェックシートは、詳細な調査を求めるものではなく、あくまでも子供たちに川やその周りの環境への関心を高めてもらうために作成したものです。
- 1匹でもいればよいのかどうか？  
→人それぞれ感じ方は異なるので、各自が思ったままに評価してもらうこととしています。
- 「生き物の種類が少なく外来種が多く観察される場合には」というのは「在来種が少ない」ということで、「生き物」は多いということではないか。  
→ご意見のとおりです。ここでは、外来種によるその場所独自の生態系の破壊について触れるため記載しています。

#### 質問7 質問「④植物は生えていますか？」について

- 植物は生えているに決まっているので「あります」でも良いのでは？  
→存在を問う質問に変更しました。
- 「他の生き物」→「魚や虫などの生き物」。「自然的要因(地形など)」→「自然的要因(地形、季節など)」  
→表現を変更しました。
- 子供に説明できる資料が必要。  
→必要に応じて図鑑等を用意していただきますようお願いいたします。

#### 質問8 質問「⑤まわりの景色を見てどう思いますか？」について

- 周りの景色の中に、ごみの有無の評価も入っているのか。  
→ごみの有無も含まれています。
- 景色が美しいとは子供にとってどういうことか？  
→人それぞれ感じ方は異なるので、各自が思ったままに評価してもらうこととしています。
- 4つ目の・の意味が不明瞭なので、2つ目の・に「個人の感じ方や場所の特徴に応じて異なる」という表現を加えてみてはどうか。  
→文章を整理しました。

#### 質問9 質問「⑥自然の音が聞こえますか？」について

- 魚、虫、植物等の言葉が質問にありますので、鳥の鳴き声を重くしてください。  
→質問③に「鳥」を追加しました。
- 「音」という文言だけでなく、何らかの工夫で「声」の表現も入れられないか。  
→「声」を追記しました。

#### 質問10 質問「⑦川やその周りのにおいはどうですか？」について

- 「少しにおう」と感じる子たちをどの項目に記入させればよいのか。  
→「におう(心地よいにおい又は嫌なにおい)」か「におわない」かで評価してもらうため、少しでもにおう場合には「におう(心地よいにおい又は嫌なにおい)」としてください。
- 「ヘドロは～腐敗することで生成されます。」と言っておいて、「～酸素がない状態で分解されると～」というのは表現が変です。  
→表現を変更しました。

### 質問11 質問「⑧川やその周りで食べられる魚や植物などを知っていますか？」について

- ・ 特別な知識を必要としない五感による評価であれば、実際に口にして評価するしかないのでは。  
→存在を問う質問に変更し、実際に食べるか食べないかを問う質問ではないという注意文を記載しました。
- ・ 食べられない魚がいるのですか？水質が悪く食べられない魚はいますが。  
→存在を問う質問に変更し、実際に食べるか食べないかを問う質問ではないという注意文を記載しました。
- ・ 項目としてはよいが、実施の際に「食べられる」ことに詳しいスタッフがいるかどうかによって、この項目の生かし方が左右されそうだ。  
→いくつか具体例を記載しました。また、県では、川の国アドバイザー制度を設け、魚や植物に関する知識が豊富な方を環境学習の講師として派遣しておりますので、ぜひご活用ください。

### 質問12 質問「⑨ここで遊んだことがありますか？」について

- ・ 初めての場所を評価できない。  
→初めての場所では実施する場合には、理由の記述欄に初めてという旨を記述してもらるか、この質問項目を飛ばしていただいても構いません。
- ・ はじめて見る川といつもきている川は違う。
- ・ 地域のマイリバーか、たまたま行事としての目的地かによって子供たちの答えが分かれそうだ。  
→初めての場所では実施する場合には、理由の記述欄に初めてという旨を記述してもらるか、この質問項目を飛ばしていただいても構いません。
- ・ この質問だけ経験を問う質問になっているのは違和感があります。「遊びたいと思いますか？」という質問にしてみてもどうか。  
→検討会での検討の結果、頻度による利用状況の評価する項目として現行のままとすることになりました。

### 質問13 質問「⑩水に触ってみたいですか？」について

<特にご意見はありませんでした>

### ③ 「集計シート」について

#### 質問1 全体的なレイアウトについて

- ・まとめ方として良い。
- ・表の2の○はちょっと濃くするか点線にするかすれば、表のへこみ等が分かりやすい。  
→グラフの補助線を点線にしました。
- ・「なぜそのようにしたのか」と「感想」のところが小さく、記入するにあたって書きにくい。  
→スペースに余裕がないため、別の紙に記入していただきますようよろしくお願いします。

#### 質問2 集計方法について

- ・チェックシートの質問欄の番号を大きくしてもらえると集計しやすいです。  
→番号を大きくしました。
- ・グラフもネットで描けると良い。  
→今後の使用状況に応じて検討していきます。
- ・「なぜその評価にしたのか」→「なぜその評価になったのか」  
→代表者の意見のため現行のままとしました。

#### 質問3 追加してほしい項目(内容)について

- ・写真を貼るのは、実際には手間がかかるので、省いて簡素にしても良いかもしれません。  
→写真は調査時の客観的なデータとして添付してもらうものであり、添付が難しいようであれば省略していただいても構いません。
- ・「最も人数の多かった評価」の平均値を記入できる欄があると、時系列的な評価の総体的な比較が可能となる。  
→スペースに余裕がないため記入欄を設けることができませんでしたが、目的に応じて使用方法を工夫していただいても構いません。

### ○ その他のご意見、ご感想

- ・調査は炎天下の中で行うことが多いため、質問が厳選され、分かりやすい記載となった子供版は非常に使いやすかった。
- ・以前よりも使いよくなりました。
- ・内容が簡素で分かりやすく絞り込んであり、大変良く出来ていると思いました。
- ・県からの依頼があればやるが、実際には子どもたちの活動での利用は少ないと思う。  
→様々な機会をとらえて広く周知していきます。
- ・これから、活用事例のようなものも、出来てくると良いと思います。
- ・県は、データを回収してどのように活用するのでしょうか。  
→お送りいただいた調査結果を随時HPに掲載し他の団体との情報共有を図っていきます。また、今後の実施状況に応じてその他の活用方法についても検討していきます。
- ・タイトルの「川の好感度チェックシート」が、子どもたちにはいまひとつピンとこないようです。子供向けのタイトルを考えても良いと思います。  
→検討会での検討の結果、タイトルを「みんなの川のチェックシート」とすることになりました。
- ・このチェックシートへの取組み方は大変良いと思います。
- ・調査は、四季、場所などで同じ流域でも変化があるので、年度毎の蓄積と比較照会のため、ファイル方式か手帳型にして配布されたらどうでしょうか。(費用はかかりますが・・・)  
→今後の実施状況に応じて検討していきます。
- ・小学校低学年では読めない漢字が多いと思います。  
→対象は小学校3年生以上を想定しており、4年生以上で習う漢字にはふりがなをふっています。
- ・生徒が川を訪れるきっかけになるので、機会があれば活用したいと思う。
- ・夏休みの自由研究等へ活用できると思います。
- ・指導者マニュアルについては、詳細に説明されていましたが、指導者としてここまでしっかりと理解をして子どもに伝えなければならないのかと改めて感じました。  
→「指導者」という負担とならないよう「説明者」と記載し、説明者の方も子供たちと一緒に学んでもらう機会として活用していただければと考えています。